

地域活性化をベースにした 「場」のデザインと「個」の関係性

田中 晃代¹

¹ 正会員 近畿大学准教授 総合社会学部 (〒577-0813 大阪府東大阪市新上小阪 228-3)
E-mail:t-akiyo@socio.kindai.ac.jp

地域活性化をベースにした「場」を参与観察した後、インターネット公開調査を実施し、共分散構造分析をおこなった結果、地域への愛着をベースに「事業推進力」「協働力」「専門性」の3つの機能を抽出した。特に専門性については、ファシリテーション、コーディネーション、キュレーションという役割を確認できた。これらの役割がダイナミックに連携することで、新たな活動の展開が期待できるといえる。地域活性化をベースにした「場」では、専門性のなかでも特に「ファシリテーション」が重要な役割であるといえるが、今後は、ICT等の技術革新によって、キュレーターへの役割についても徐々に増加する傾向にあると考えられる。

Key Words: individual, the design of “ba”, relevance, regional activation

1. はじめに

本研究は、地域活性化の「場」を事例に、インターネット調査をもとに、参加者動向を分析し、「場」のデザインを解明するものである。近年、大阪市およびその周辺で急増している情報交流の「場」は、「シャベリバ」「地域交流研究会」「ラウンドテーブル」「まちカフェ」「井戸端会議」などその名称も多様である。こうした「場」で繰り広げられる「個」のコミュニケーションを参与観察すると、従来の自治会や町内会などの既存組織の会合に見られない多様な人材によるコミュニケーションの展開を見出すことができる。例えば、「情報発信のしかた」についても、交流の「場」において、You tube や Facebook, Twitter でリアルタイムに配信し、次回の「場」への参加を促すように工夫されている。こうした情報発信機能に関して、キュレーターという言葉が、近年まちづくりの現場で使用されるようになった。このキュレーターについては、一般的に博物館や図書館の学芸員を示すことが多いが、ここ5年のSNS等の普及により、ネット上の情報を収集整理し、他のユーザーと共有する行為者を示す言葉とされている。「キュレーター」について、日本では、正確な把握がなされていないことが多く、比較的安易に使われており、そのため、キュレーターの言葉の定義の混乱を助長させているので

はないかとの指摘もあるが、そんな中でも、荒井¹⁾はキュレーターについて、「キュレーターとなる人材に求められるのは、地域の情報に対する感度が高いことはもちろん、地域資源やそれを活用した地域活性化活動についてユーザーが関心を持ち共感できるようにデザインされた情報を発信できる能力である。」としている。こうしたキュレーターと近しい専門性を持つ「ファシリテーター」や「コーディネーター」の役割については、まちづくりの分野において以前から重要視されてきた。森²⁾はファシリテーションについて「人と人との関係や集団による思考を活性化し、新しいプラスアルファを促す術。建設的な議論を促し、組織を活性化し、実行力を高める。怒鳴り声や罵声や愚痴、不満ではなく、はつらつとした新しいアイデアと笑い声で満たされる組織。そういう場をつくり、プロセスをリードすることをファシリテーションと呼ぶ」としている。また、コーディネーションについては「いろいろな要素を統合・調整して1つにまとめあげること」で、ファシリテーションよりもさらに専門性が必要とされる。こうした3つの「個」の専門性をうまく紡ぎ、次のダイナミックな活動の展開へと導く「個」の役割が地域活性化をベースにした「場」にあるのではないかと考えた。特にキュレーターについては、地域情報や資源を活用し、地域を活性化するための取り組みをおこなう「場」をデザインし、参

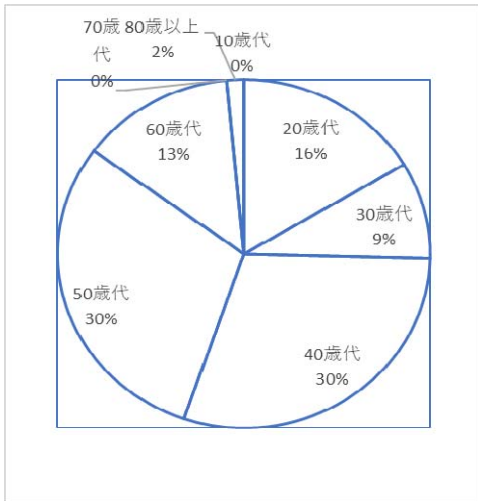


図-1 アンケート対象者の年齢

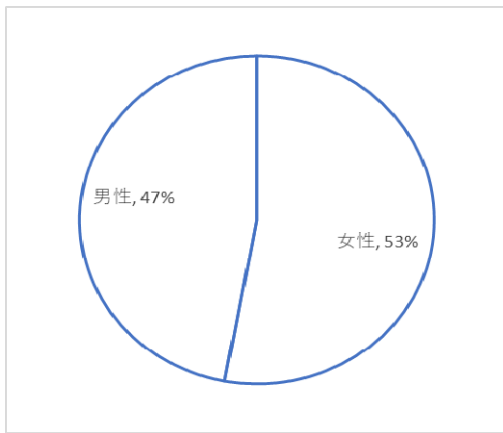


図-2 アンケート対象者の性別

加者を増やし持続可能な活動のために重要な役割を担っているといえる。「行政との連携を築く市民組織の仕組みと機能に関する研究」のなかで、平井らは、組織内に「場」をデザインすることで、主体間の関係の組織化がされるとしている³⁾。また、「場」づくりについては、相互作用と関係変容を促す対話と交流の場を扱った吉村⁴⁾やテーマ型のコミュニティカフェを扱った浜田ら⁵⁾の先行研究がある。これらの先行研究をもとにしながらも、本研究では、まだ、わが国においては機能や役割の解明が十分されていない情報交流の「場」をとりあげ、機能的条件整理をおこなう。

調査手法は、筆者が情報交流の「場」に継続的に参加し、参与観察をしたうえで、参加者の活動状況や志向を知るために2018年4月8日から15日までの1週間をかけてインターネット公開調査を実施し、69名の回答を得た。その集計結果をもとに共分散構造分析をおこなった。

2. 「場」のデザイン

(1) 回答者の属性

インターネット調査では、情報交流の「場」の参加の

状況や参加者の年代、性別のほかに、まちづくり活動への参加状況、情報交流の「場」に求めるものについて質問をおこなった。

アンケート回答者の年齢は、50歳代と40歳代がそれぞれ30%となっており、その次に多いのが20歳代で16%である(図-1)。性別については、回答者の53%が女性で、女性と男性のどちらかに偏っているというわけではない(図-2)。

表-1 まちづくり活動への参加状況や志向

(1)	活動や人材をつなげる活動
(2)	コミュニティ・ビジネスなど起業に関する活動や支援
(3)	まちの将来ビジョンを考える活動
(4)	まちの情報を動画やSNSなどを利用して効果的に発信
(5)	まちの景観や土地利用への関心
(6)	クラウドファンディングや助成金申請等活動資金獲得の活動
(7)	事業企画を考え実施するための活動
(8)	地域ニーズを掘り起こす活動
(9)	建設的な意見を促し、活動を活性化して実行力を高める活動
(10)	いろいろな要素を統合・調整して1つにまとめる活動
(11)	参加している情報交流の場のある地域への愛着

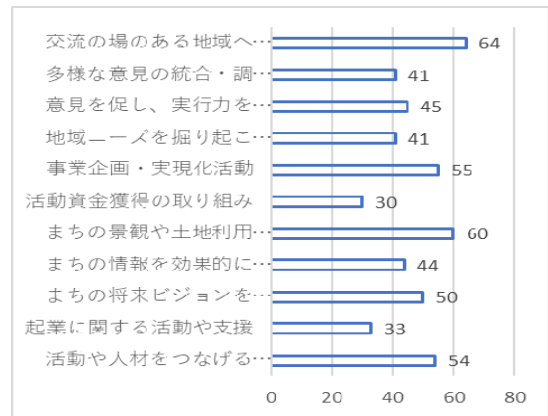


図-3 まちづくり活動への参加状況と志向 (複数回答可)

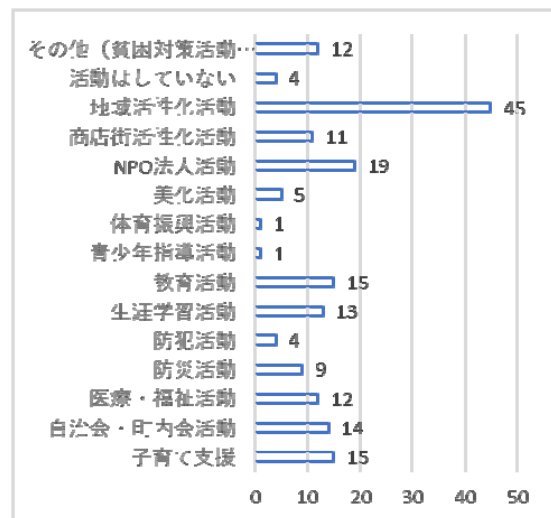


図-4 まちづくり活動への参加実態 (複数回答可)

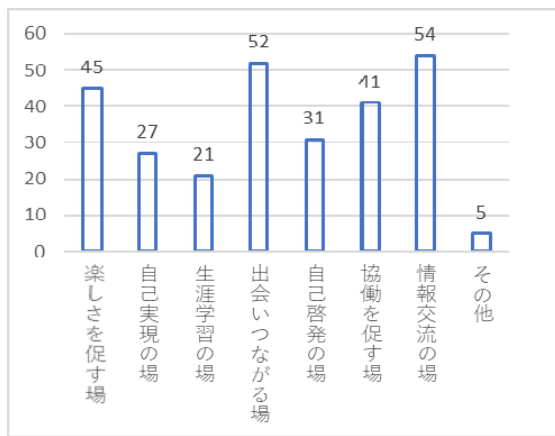


図-5 地域活性化をベースにした「場」に求めるもの
(複数回答可)

(2) まちづくり活動への参加状況

次に、まちづくり活動への参加状況や志向について表-1のような質問を投げかけた。いずれも、「はい」か「いいえ」の選択肢を用意した。その結果、図-3に示す回答が得られた。

まず、最も多く回答が得られたのは、質問項目

(11)の「参加している情報交流の場のある地域への愛着」(出現回数 64)である。その次に多いものが、質問項目(5)の「まちの景観や土地利用への関心」(出現回数 60)である。それらとは反対に、質問項目(2)の「起業に関する活動や支援」(出現回数 33)や質問項目(6)の「活動資金獲得の活動」(出現回数 30)などの経済活動が少ない。活動助成を受けるにしても、活動者にとっては、助成金申請等書類作成のハードルが高いからではないかと推察できる。また、インターネットアンケート回答者のまちづくり活動への参加実態については、「地域活性化活動」が最も多い(図-4)。この「地域活性化活動」が示す地域活性化の定義については、今までの参加状況や志向を勘案すると、単に経済活動を中心に据えた地域の活性化ではなく、交流人口や関係人口を増やす取り組みであると推察できる。

(3) 情報交流の「場」に求めるもの

情報交流の「場」に関する質問をしたことで、情報交流の「場」に求めるものの多くが「情報交流」(出現回数 54)であったことは否めないが、「出会いつながる場」(出現回数 52)や、「楽しさを促す場」(出現回数 45)や「協働を促す場」(出現回数 41)なども見られた。また、「自己啓発」や「自己実現」「生涯学習」といった生涯教育を情報交流の「場」に求めるものもあった(図-5)。

3. 共分散構造分析による「個」の役割(図-6)

(1) MIMICモデルの見方

この章では、今までの集計結果をもとに、まちづくり活動における参加状況と志向の質問項目を使用して、共分散構造分析の解析をおこなった。情報交流の「場」に参加する参加者のまちづくり活動の動向や志向を分析することで、「場」のもつ機能や「個」の役割を明らかにするためである。モデルのタイプは、潜在変数をはさんで観測変数→潜在変数→観測変数の3層構造となるMIMICモデルを選択した。

モデルを作成するにあたって、ベースと考えられる潜在変数は、「まちへの愛着」とした。そのうえで、「事業推進力」「協働力」「専門性」を位置づけた。

MIMICモデルの検証については、GFI、AGFI、RMSEA、RMRを参照にした。GFIやAGFIの数値は1に近づくほど分析がうまくいっているとみなす指標であるが、0.9以上ならば、モデルの妥当性は高いとされている。また、RMSEAとRMRの数値は0に近づくほど分析がうまくいっているとみなす指標である。本論文のモデル検証は、図8に示すとおりであるが、モデルの妥当性は、おおよそ妥当であるという判断をした。

(2) モデルの分析・考察と検証

MIMICモデルで解析したところ、「まちの愛着」をベースに、3つの潜在変数「事業推進力」「協働力」「専門性」が抽出できた。これらは、地域活性化をベースにした「場」における「個」の役割ととらえることができる。具体的には、「事業推進力」は、事業計画の策定や将来ビジョンの策定のみならず、ビジネス感覚や活動資金の獲得など事業を推進するにあたっての「個」の力である。「協働力」については、活動や人材をつなげたり、地域ニーズを掘り起こすなどして、ヒト・モノ・カネをマッチングする「個」の力である。

最後に「専門性」については、建設的な意見を促し活動を活発にするファシリテーション、意見や活動を1つにまとめ調整するコーディネーション、まちの情報を効果的に発信するキュレーションの3つの役割が抽出できた。参与観察によってキュレーターが確認できる交流会は、5年以内に設置された交流会が中心であり、十数年続く交流会ではキュレーターの存在が確認できないことが多い。このことについては、総務省の平成29年版情報通信白書のなかの情報通信端末の世帯保有率の推移を見る限り、情報機器の中でも特にスマートフォンの急激な普及により(保有率:2010年9.7%保有→2016年71.8%保有)、SNSを利用しながら容易に動画や写真などの情報発信が可能となったことが要因であると推察される。また、潜在変数である「専門性」の観測変数「建設的な意見を促し、活動を活性化する活動」のパス係数を見ると、0.811と高い数値が見いだせた。このことか

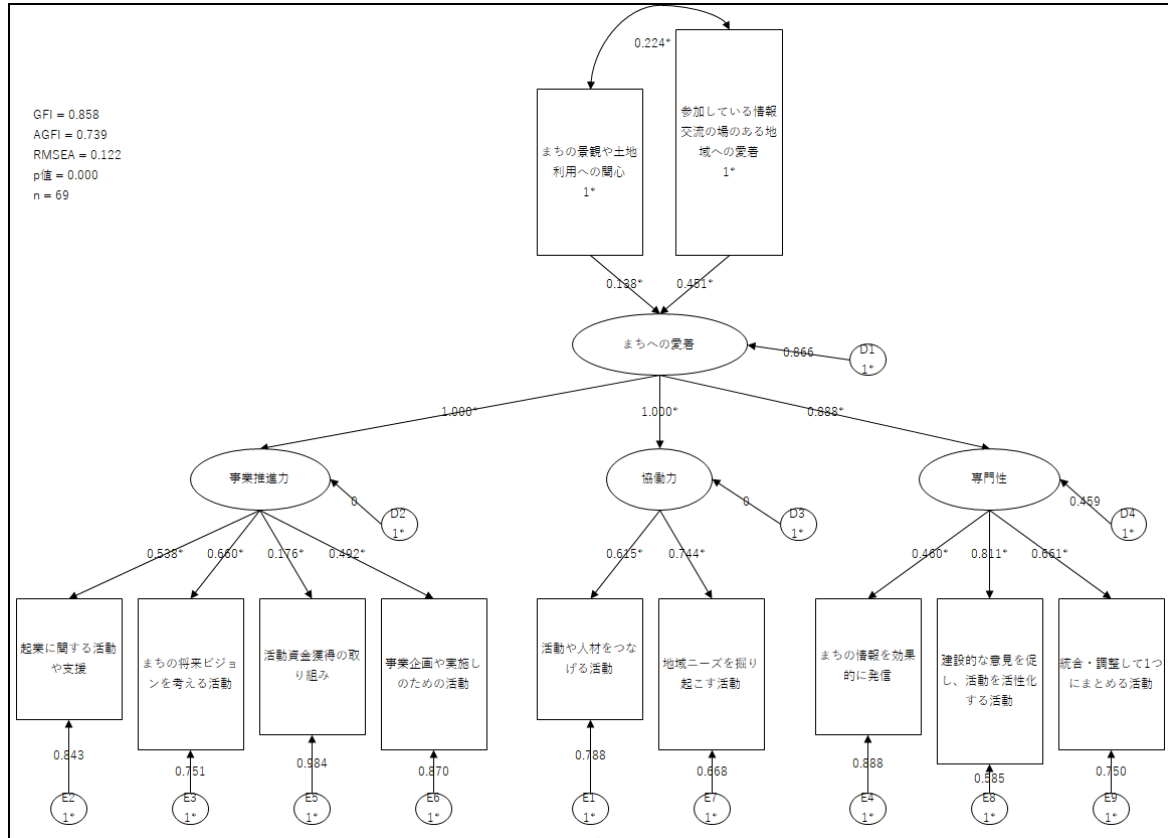


図-6 MIMICモデルとその検証

楕円は潜在変数、四角は観測変数を示す。また矢印は、因果関係を示し、そこに示されている数値は、パス係数を表す。

ら、地域活性化をベースにした「場」では、専門性のなかでも特に「ファシリテーション」が重要な役割であるといえるが、今後は、ICT等の技術革新によって、キュレーター役割についても徐々に増加する傾向にあると考えられる。

4. まとめ

以上、前述の事例にもあったように、区や市の職員、企業、市民、学生など各主体が対等な立場で参加し、「事業推進力」「協働力」「専門性」を活かすことでダイナミックな次の活動の展開が期待できると考える。

参考文献

- 1) 荒井祐介：「地域情報の共有・発信プラットフォーム構築プロジェクトのマネジメント」、『国際 P2 M 学会研究発表大会予稿集』 pp.95 - 104, 2011 年
- 2) 森時彦：「ファシリテーターの道具箱」、ダイヤモンド社、2008 年
- 3) 平井亮雄・後藤春彦・佐藤宏亮：「行政との関係を築く市民組織の仕組みと機能に関する研究—情報交流を軸に住環境マネジメントを担う連絡会の組織形態に着目して」、『日本建築学会計画系論文集』、第 73 巻、第 624 号、pp.385 - 392, 2008 年
- 4) 吉村輝彦：「対話と交流の場づくりから始める協働型まちづくりの展開に関する一考察、名古屋市名東区「めいとうまちづくりフォーラム」を事例に」、『都市計画論文集』 Vol. 49.3., 公益社団法人日本都市計画学会、pp.313-318, 2010 年
- 5) 浜田麻里奈・後藤春彦・山村 崇：「テーマ型カフェを媒介とする地域活動ネットワークの展開に関する研究 国分寺市カフェスローとその関連団体が関わる地域イベント活動に着目して」、『都市計画論文集』 Vol. 51.3. pp. 783-788, 2014 年

(2018. 4. 27 受付)

RELEVANCE BETWEEN “INDIVIDUAL” AND THE DESIGN OF “BA” BASED ON REGIONAL REVITALIZATION.

Akiyo TANAKA

After observing the "field" based on the regional revitalization, we conducted an Internet public survey and analyzed the covariance structure, and as a result, based on the attachment to the region, "business promotion power", "collaboration power" "specialty Three functions were extracted. Regarding expertise in particular, we were able to confirm the roles of facilitation, coordination and curation. It can be said that development of new activities can be expected by dynamically linking these roles.